

# 植物工場の実証拠点

## エコデシック 収益モデル構築・提案

【千葉】エコデシック（千葉県柏市、後藤秀樹社長、04・7138・5480）は、植物工場事業の収益力などを実証するモデル工場を2021年9月をめどに開設する。投資額は約1億円。同拠点を活用してビジネスモデルを構築し、植物工場本体とパッケージ化して提案する。約5年後の25年9月期に全社の売上高で20億円、経常利益で3億〜4億円を計画する。

これまでエコデシックは、簡易的な設備で植物工場事業を展開してきた。新たに延べ床面積が200〜250平方メートルのモデル工場を開設し同事業の成長を加速する。新拠点では複数品種のレタスを中心にハーブを生産し、ウハウを蓄積する。取扱品目や価格、販売方法などを含めて収益を確保できるビジネスモデルを構築し植物工場本体とセットにして提供する。新拠点の候補地としては鹿児島市、本社がある千葉県柏市、沖縄県の3カ所が候補に挙がっている。モデル工場新設の資金を確保するためクラウドファンディングを8月に実施し約4000万円を調達。また21年3月までに5000万〜1億円を調達する計画で、ベンチャーキヤピタル（VC）や事業会社と交渉している。

同社の植物工場は「露地野菜並みのコストで、同じサイズの野菜を生産できる」（後藤社長）のが特徴。根に刺激を与えながら育てる独自の促成栽培方式に加え、光源となる発光ダイオード（LED）設計や液体肥料の最適化で実現したという。

同社の20年9月期の売上高は新型コロナウイルスの影響を受け、前期比約30%減の2000万円の見通しだが、植物工場事業を柱に成長を加速し、25年後半に新規株式公開（IPO）を目指す。

【千葉】エコデシック（千葉県柏市、後藤秀樹社長、04・7138・5480）は、植物工場事業の収益力などを実証するモデル工場を2021年9月をめどに開設する。投資額は約1億円。同拠点を活用してビジネスモデルを構築し、植物工場本体とパッケージ化して提案する。約5年後の25年9月期に全社の売上高で20億円、経常利益で3億〜4億円を計画する。